

# 3 R 資源グローバル戦略の着実な実施

## 我が国の技術・システムを活用する2つの視点

### 資源の「環境・経済上、最適な利用」の追求

エコデザインなど、設計から廃棄、再生、製品化までの循環のメカニズムで環境負荷を低減

【使用済製品の分解・再資源化】



富士ゼロックス（株）でのアジア・パシフィック地域の9つの国と地域での商品回収、分解・分別、再資源化ネットワーク構築の取組

### 資源を「生み出し、活用する」取組の推進

高度な資源回収・リサイクル技術を活用した資源のサプライチェーンを形成

【インジウム等の希少金属の効率的回収】



インジウム：液晶などで用いられ、可採年数は約7.5年。  
写真：同和鉱業（株）の金属蒸気回収炉

## 我が国の先進的な3 R 技術・システムを、民間の力を活かしながら世界へ展開 —環境保全を通じて国際競争力を確保—

2008年を節目に、取組を推進

### 国際機関との連携

OECDと物質フロー・資源生産性の共同研究の実施・国際会議の開催

A DB(アジア開発銀行)・UNEP(国連環境計画)と連携し、技術情報を含め3 R推進のナレッジ・ハブの構築

### 適正・円滑な流通の国際ルールづくり

有害廃棄物等のアジアで共有できるデータベースの構築(アジア・リスティング)

E-wasteなどの適正な輸出入確保のための国際ガイドラインの策定

### アジア各国との連携

アジア各国(ベトナム等)における3 R推進の計画策定等の支援

### 技術基盤の充実

3 R推進のための様々な技術研究開発の推進

### 東アジア循環型社会ビジョンの策定

(東アジア地域で、環境負荷低減と資源有効利用を同時達成)

## アクション5 環境大競争時代の人材輩出機関

### アジアにおける現状と課題

#### 環境大競争をリードする企業人育成の必要性

- 大学における取組のバラツキ・偏りを補完し合う必要  
(各大学によって、環境問題や持続可能な開発に関する教育のカリキュラムや教授陣の充実度や得意分野に差が存在)
- ビジネススクールにおける取組の不足
- アジアの現場における職場研修の不足
- 国際的に通用する我が国人材育成者の不足

### 目標

- 環境大競争を進めるビジネスリーダー養成
- 環境大競争を支える技術者育成
- 実務的な職場研修支援
- 我が国の人材育成者の強化

### 具体的提言

- 優良大学による国際人材育成ネットワーク(国境を越えた環境大学院)
  - ・各国の強みを活かした優良大学ネットワークによる質の保証された学位交換制度
  - ・内外の教授の人材交流による我が国の教育界の人材育成促進
  - ・ICTを活かした共通の教材の開発⇨オンラインコースへの展開
- 国内や香港等のアジアのビジネススクールにおける持続可能な開発コース
- 我が国多国籍企業による海外進出・関連企業の職場研修への支援制度創設



現状(2006年)



2008年目標



2010年目標

## 国境を越えた環境大学院 (優良大学による人材育成ネットワーク)

- 個別大学間連携 ⇒
- ・アジアの優良大学数校における連携協定締結
  - ・共同のSD大学院コース開始
  - ・学位交換制度開始
  - ・教授等人材交流
- ⇒
- ・協定締結大学の拡大(数十校規模)
  - ・2010年までに教授レベルで人材交流

## ビジネススクールにおけるSDコース

- 現状では明確なものはない。 ⇒
- ・日本、香港、シンガポール等ビジネススクールでコース開設
- ⇒
- ・SDコースを拡大
  - ・SDマインドのあるビジネス・リーダーの養成(数百人規模)

## 海外進出・関連企業での職場研修 [産業界を中心とする体制]

- 個別企業が実施 ⇒
- ・海外の現場での研修促進のためのマニュアル作成
  - ・進出企業への周知普及
- ⇒
- ・地球環境憲章を掲げる企業での実施を期待
  - ・例えば、税制面等の支援策強化

※「SD」とは、「Sustainable Development(持続可能な開発)」の略